

日本混相流学会 2012 年度第 2 回理事会・議事録

日時： 平成 24 年 10 月 6 日(土) 13:00-17:30

場所： (新大阪) 大阪ガーデンパレス 406 号室

出席者：

秋本肇(会長)、菱田公一(筆頭副会長)、小泉安郎(副会長)、梅川尚嗣(情報部会長)、川原顕磨呂(企画部会長)、大川富雄(国際部会長)、呉田昌俊(総務部会長)、村井祐一(北海道地区担当、混相流計測技術国際シンポジウム委員長)、服部修次(北陸・信越地区担当)、土屋活美(関西地区担当)、梅田眞三郎(中国・四国地区担当)、吉野正人(年会講演会実行委員長)、野村信福(オーガナイズド混相流フォーラム実行委員長)、近藤健(事務局長)

議題と配布資料：

1. 会長挨拶 [資料 2012-2-01]
2. 学生優秀講演賞について(企画部会) [資料 2012-2-02]
3. 2012 年度学生会報告(企画部会) [資料 2012-2-03]
4. 前回議事録の確認 [資料 2012-2-04]
5. 各種委員会委員名簿(9月号会告原稿)の確認 [資料 2012-2-05]
6. 地区代表の選任について [資料 2012-2-06]
7. 情報部会報告 [資料 2012-2-07]
8. 国際部会報告 [資料 2012-2-08]
- ・第 8 回混相流計測技術国際シンポジウムの開催予定について [資料 2012-2-09]
9. 企画部会報告
- ・第 62 回理論応用力学講演会の OS オーガナイズドセッションについて [資料 2012-2-10]
- ・分科会経費増額申請について [資料 2012-2-11]
10. 総務部会報告 [資料 2012-2-12]
11. その他
- ①学会賞受賞候補者の推薦について [資料 2012-2-13]
- ②業績賞、貢献賞、名誉会員についてのスクリーニング作業について [資料 2012-2-13]
- ③2013 年 OMF 実行委員長の選出について [資料 2012-2-14]
- ④小泉副会長資料 [資料 2012-2-15]
- ⑤2012 年度第 3 回・第 4 回・第 5 回理事会日程について

議事：

1. 報告事項

1. 1 秋本会長から、資料 2012-2-01「平成 24 年度日本混相流学会理事会活動の目標について」に基づき 2012 年度の目標および検討課題が示された。また、参考資料「日本混相流学会役員選任の進みかた」により、役員選出に関する内規と注意点が報告された。
1. 2 服部学生会担当理事から、2012 年度学生会夏季セミナーについて報告がなされた。
1. 3 呉田総務委員長から、各種委員会委員名簿(9月号会告)の報告がなされた。本理事会で、委員会情報の一部に欠落が生じているとの指摘があり、12月号会告において修正版を掲載することとした。

1. 4 梅川情報部会長から、資料 2012-2-07 により情報部会の活動報告がなされた。海外留学・派遣等から帰国された会員の情報を梅川情報部会長に連絡して欲しい旨、要望が出された。菱田副会長から、「投稿の手引きに関して、記載が細かすぎる、Google 検索に引っかかる PDF, キーワード検索を意識した作りをする方がよい、またはテンプレートの出来が良ければテンプレートだけでもよい」との意見があった。
1. 5 大川国際部会長から、資料 2012-2-08 により第 8 回混相流計測技術国際シンポジウムの開催予定、日欧二相流専門家会議の開催報告、ICMF の現状等の活動報告がなされた。
1. 6 村井混相流計測技術国際シンポジウム委員会委員長から、資料 2012-2-09 により、第 8 回混相流計測技術国際シンポジウムの開催予定について、現状報告がなされた。また、川原理事から、日欧二相流専門家会議について詳細な報告がなされた。
1. 7 大川理事が、企画担当の道奥副会長の代理として、第 62 回理論応用力学講演会の OS オーガナイズドセッションについて、資料 2012-2-08 に示す内容 (OS の提案状況、全体企画) で進めている旨、報告がなされた。
1. 8 呉田総務部会長から、資料 2011-2-13 に基づき業績賞、貢献賞、名誉会員についてのスクリーニング作業について報告がなされた。
1. 9 呉田総務部会長から、資料 2012-2-14 に示されるように、2013 年 OMF 実行委員長の選出スケジュール等について報告がなされた。
1. 10 小泉副会長から、資料 2012-2-15 に基づき混相流学会秋期フォーラムの提案がなされた。内容は学術会議報告書に関する講演とし、それに混相流学会が企画面で対応を考える趣旨であるが、菱田副会長から、「学術会議と混相流学会が一緒に行うのがよいのかどうか、混相流学会秋期フォーラムの企画案はハードルが高い」との異議が出された (本議論は、混相流シンポジウムを学術会議主催で実施するかどうかの議論: 以下の 3. 5につながる)。

2. 承認・決定事項

2. 1 服部学生会担当理事から、資料 2012-2-02 に記載された年会講演会 2012 学生優秀講演賞候補者が報告され、理事会でこれを承認した。
2. 2 前回議事録案[資料 2012-2-04]に関して、これを承認した。記載に関して、菱田副会長および小泉副会長から、今後は理事会の議事進行を報告事項と協議・審議事項等に分けた方がよいとの発言があり、本議事録から事項毎に分類することとした。
2. 3 呉田総務部会長から、地区代表者の選任に関する 2012 年度の具体的な時期等について資料 2012-2-06 に基づき説明があり、メール審議で地区代表者を承認する方針に決定した。
2. 4 梅川情報部会長から、和文投稿規定、英文投稿申込書、WEB 内投稿規定、投稿手引、テンプレートに関する改訂案等が示され、これをメール審議し、WEB 掲載することを承認した。また、和文投稿規定は、今あるベストのもの、すなわち最新の改訂案に差し替えることを決定した。また、広告収入の増収案に関連して、年会講演会論文集での広告について、詳細を梅川情報部会長と吉野年会講演会実行委員長が詰めて、その案で広告を出すことを承認した。
2. 5 呉田総務部会長および吉野年会講演会実行委員長から、資料 2012-2-11 に基づき分科会経費増額申請について説明があり、第 18 回 LBM 研究会講演会および同様な研究会 (2013 年 6 月予定) の実施のため、理事会はこの増額申請を承認した。
2. 6 呉田総務部会長から、資料 2012-2-12 に基づき OMF2013 の開催場所について、持ち回りの順番から関東地区が候補地区である旨報告があり、関東地区で実施することが承認された。なお、実行委員長および開催場所に関しては、森関東地区担当理事が選出し、メール審議により承認することを決定した。

2. 7 呉田総務部会長から、資料 2012-2-12 に基づき年会講演会 2014 および年会講演会 2015 の開催場所について、持ち回りの順番から北海道地区と中国・四国地区が候補地区である旨報告があり、年会講演会 2014 の開催地区は北海道地区、年会講演会 2015 の開催地区は中国・四国地区とする方針を協議後決定した。なお、実行委員長および開催場所については、北海道地区は村井理事が、中国・四国地区は梅田理事が調整し、総務部会長に連絡または理事会に報告をすることとした。
2. 8 2012 年度第 3 回・第 4 回・第 5 回理事会日程を以下に確定し、開催場所を以下の予定で了解した。
- | | | | | |
|-------|---------------|-------------|------------------|--------------|
| 第 3 回 | 12 月 15 日 (土) | 13:00-17:00 | 関西大学東京センター | (確定) |
| 第 4 回 | 3 月 2 日 (土) | 13:00-17:00 | 大阪ガーデンパレス 406 号室 | (確定) |
| 第 5 回 | 7 月 13 日 (土) | 13:00-17:00 | 関西大学東京センター | (日時確定、場所は予定) |

3. 審議事項

3. 1 梅川情報部会長からの報告に関する議論を通じて、菱田副会長から、「今はオンライン PDF がメインとなっている時代、J-Stage で公開されるのであれば抜き刷りを必要としない時代となっている」との認識が示され、①掲載料、②論文投稿手数料、抜刷代等論文掲載に係わる収入に関して他ではどうなっているのか調査、③財務整理が必要であることが浮かび上がり、これら 3 点に関して秋本会長が財務担当の小泉副会長に取り纏めを依頼した。論文の問題は、最も重要な問題であるとの共通認識から、次回以降も引き続き審議をすることとなった。なお、精選論文集は、学位論文に間に合わせるために作った経緯があり、特長があつて良いとの意見があつた。
3. 2 国際部会報告からの議論の中で、菱田副会長から、「日本混相流学会は ICMF に対するサポート学会として認知されているが、実態は違う。今後どうコミットしてゆくのか、情報を収集し、混相流学会としての対応を決める必要がある。」旨の課題が示された。
3. 3 財務に関する議論の中で、分科会予算 90 万円について (5 万円/分科会) として支出計画を立てているが、実際にはそれだけの支出がないことから、川原企画部会長に分科会がどれだけ委員会で支出をしているのか、実体をまとめ表にして欲しい旨の要望が出された。
3. 4 学会賞受賞候補者、業績賞、貢献賞、名誉会員候補者の選出に関して議論し、菱田副会長から以下の方針が示された。
- ・次の候補者リストを準備する。
 - ・学会賞委員会を立ち上げる。目的は情報継続のため、および人を漏らさないため。
 - ・論文賞に関しては、“待ち”では集まらないため、積極的に集める努力をする。梅川編集委員長には論文集からの推薦を、また奨励賞に関しては、学生優秀論文賞受賞者のフォローを期待する。
 - ・過去の受賞者リスト (受賞者、論文名、ジャーナル) を整備する。受賞者および論文名は、WEB 等に記録があるが、ジャーナルに関しては調査努力が必要。
3. 5 日本学術会議と日本混相流学会の関係に関する議論について (意見と決定)
- (意見) 信州である年会講演会では、学術会議と切り離れた方がよい。
- (意見) 特別講演はやった方がよいが、シンポジウムは学術会議との関係を絶つてよい。
- (意見) 学術会議主催の理論応用力学講演会の主幹事学会になっている。
- これらの議論を踏まえ、菱田副会長から、「日本混相流学会は学術会議主催の理論応用力学講演会の主幹事学会となっており、他学会との学术交流はこの場で行うことができる。混相流シンポジウムを学術会議主催とせずとも、発展的に理論応用力学講演会において学術会議や、

他分野学会との交流が実現できる。今までの混相流シンポジウムでのセッションは、特別講演で考える。」との意見があった。

秋本会長から、「菱田副会長の案は混相流学会内部だけで企画を決められる。年会実行委員長がその任に当り理事会で報告をすればよい。混相流シンポジウムの名称を続けるかどうかは、今後理事会において議論が必要。」「菱田副会長の案（混相流シンポジウムを学術会議主催では実施しない）で決定とする。今後、名称を含め具体的な運営方法は理事会で検討する。」との基本方針が決定した。

菱田副会長から、「関係各位との関係があるので、名前はまた考える。」との意見があった。

以上

総務委員長：呉田 昌俊